



スーパーで買った卵は、ひよこがかえるの

ふつうは、かえりません

卵がかえるのは、受精卵だけです。受精卵は、オスとメスをいっしょに飼うと産まれる、オスの遺伝子を伝える「精子」が入った卵です。遺伝子は、親の性質や体質などを伝えるものです。お店で売っている卵は、卵を産ませることだけが目的で、メスだけが飼われている養鶏所からきています。これは、受精卵ではありません。「無精子」です。この卵は、温めても、くさってしまいます。

受精卵は3週間でひなに

農家の広いニワトリ小屋で、オスとメスがいっしょに飼われているニワトリは、卵を産むと、親鳥が羽の下に入れ、じょうずにだきます。ときどき、足で卵を動かしたり、体の位置を変えて、どの卵も同じように温めます。うまくいけば、21日目にひながかえます。

人工的に卵をかえす

親鳥のかわりに、人工的に温めてかえす道具を、「ふ卵器」といいます。中は、適当な湿度と、38度の温度に調節されています。どの卵も同じように温めるため、1日に数回、卵を動かします。

殻の外から育ちの様子が見える

ニワトリの卵は、38度の温度で、成長をはじめます。卵の中の「胚」といわれる部分が、ニワトリになるところです。黄身や白身は、成長するのに必要な栄養分です。胚から、血管がだんだんのびて成長していく様子は、卵をすかして見てもわかります。

(監修・今泉 忠明)

